

全体会議

「新しい日本学構築のために」

第1部 過去の経験・現在かかえている問題・将来への提言

問題提起

市古 夏生

最初にお断り致しますと、私の話を「問題提起」としてありますが、本日の「新しい日本学の構築」のシンポジウムの趣旨について話すつもりです。ご承知のように、本年4月から人間文化研究科博士後期課程に国際日本学専攻が発足しましたが、設立の目的は、従来の比較文化学専攻の研究伝統を継承して、日本文化を異文化との関連で把握することは勿論のこと、分散しがちであった日本研究の諸分野間の有機的な結合を強化すること、そして海外での日本文化に対する理解や受容を促進するということがあります。

この目的を実現するために、日本の研究者及び各種の情報を持っている研究機関（国文学研究資料館、国語研究所、国際日本文化センターなど）と連携することは極めて重要ですが、さらに海外の研究者及び研究機関との連携をはかることも、やはり大切なことでして、このような国際的な枠組みの中で初めて意味のある情報を発信できるのだと思います。さらに付け加えれば、海外の日本研究の成果を受信して、それを我々の研究に生かすということも視野に入れております。つまり、日本文化と歴史などを専門性を持ちつつ、総合的に、学際的にも研究を行う。そしてその成果を海外に発信するとともに、海外からの研究成果も受け入れ、日本研究を双方向での国際交流で推進していくということでもあります。

日本学をめぐる国際交流の推進は、実は私はあまりやってきませんでした。ですからこのような場所で最初に話をするのは似合わないのですが、ただ3、4年前に友人に誘われて、アメリカのインディアナ大学で開かれた日本文学関係の学会に参加しましたが、英語を使用した研究発表が主でしたので、たまに挟まれる日本語「夏目漱石」「浮世絵」などで少しわかったような気持ちになっただけで、大体はチンプンカンプンでした。その時に序でにワシントンDCにある議会図書館を訪問し、図書館所蔵の日本の古典籍（朝河貫一、イェール大学教授の収書）が未整理ということで調査することを約束し、昨年から目録を作成するために10数名で調査をしており、この夏と来年の夏に訪米して、調査を完了することになっています。目録は冊子を日本で出版する予定になっていますが、図書館の方ではそれをオンライン化することによって、世界のどこからもアクセスが可能になります。私の国際交流はこの程度のものですが、やはり日本学のために何がしか貢献しつつある、という思いはあります。

私のことはさておき、お茶の水女子大学では大学院レベルで昭和50年代から積極的に海外の留学生を受け入れてきましたが、特に日本語日本文学、日本語教育、日本史学、それに音楽、舞踊、服飾など日本の諸文化並びに歴史を研究する分野では、多くの教育者・研究者を養成してきました。平成以後には学位取得者も増加し、海外の研究教育機関に勤務して活躍している人材も少なくありません。ところが

そういう、かつての留学生に対して、研究上のサポートを大学として行ってきたか、というと、指導教官が個別的に行うことはあっても、大学として組織的に行っているとは言い難い状況であります。親切的な指導教官、丁寧な指導教官に恵まれた研究者はそれでもいいのですが、或いは手紙を書くのを面倒がるような怠惰な指導教官であった場合、決してサポートは期待できないはずで

先ほども申し上げたように、国際日本学専攻では、海外の「日本学」の成果を取り入れるとともに、海外に対して研究成果を発信することを設立の大きな目的としていますが、さらにかつての留学生だけでなく、広く海外の日本研究者をサポートしたいとも考えています。どの程度のことができるのか、甚だおぼつかないではありますが、支援するにあたって、色々なことを知っている必要があります。特に近年では先ほど触れた議会図書館のように、ホームページに情報を載せて提供する、インターネットの利用が早くて便利なのだと思いますが、そういう事も考慮した上で、

①海外で日本研究を行う上での困難な点（資料、データベース、情報など）

②海外での日本研究のネットワークの状況

③海外の研究機関の状況

などについて、是非とも把握しておきたいと思います。また海外の研究者が日本の研究機関や研究者に対して、どのような要望を持っているのか、などについてお聞きしたいと思います。「新しい日本学の構築のために」と銘うっていますが、本日はこのような点についてお話して頂くつもりです。勿論これ以外の点に話が及んでも結構でございます。

以上で私の話は終わりと致します。

社会言語学と異文化コミュニケーション

ヘレン・マリオット

ただいまご紹介いただきました、モナシュ大学のヘレン・マリオットでございます。

初めに私の研究について簡単にご説明してから、私と日本との関わりについて少しお話ししたいと思います。

私は、主に異文化コミュニケーションについての研究に30年近く携わってきたのですが、この研究は、ミクロ社会言語学の視点から行ってまいりました。最近、学生の留学経験の実状や成果に興味を持つようになり、初めは、オーストラリアの高校生で、交換留学生として日本で学んでいる学生を調査するプロジェクトを進めてまいりましたが、現在ではこのテーマを発展させて、オーストラリアで学ぶ日本人の留学生を調査しております。また、同時にオーストラリアに住む日本人母語話者の日本語が英語との関わりの中でどのように変化していくのかについての研究も行っております。

私は3年前、ここお茶の水女子大学で3ヶ月間の特別客員研究員というポジションをいただくという、幸運な経験を致しまして、その時、社会言語学のコースを担当する機会にも恵まれました。そういうわ